

## 有峰でツキノワグマによるカラマツの樹皮剥ぎ被害続発！ 2021. 7. 3

報告者：有峰森林文化村 霜鳥 智也

編集者：有峰森林文化村 田島 敏美

2021. 6月26日(日) 以来ツキノワグマ(*Ursus thibetanus*)によるカラマツの樹皮剥ぎ被害が続発しています。「樹皮剥ぎ」とは、主に5月から7月にかけて主にヒノキやスギ、カラマツなどの針葉樹の幹の樹皮を剥がして形成層や内皮を齧る行動です。

6月26日に続き、7月3日も子熊2頭を連れた母熊のカラマツの樹皮はぎ行動を目撃しました。ツキノワグマの樹皮剥ぎ行動を直接確認できたことは大変貴重な記録と考えます。クマの樹皮剥ぎの発生要因として、1) マーキング説、2)  $\alpha$ -pinene説、3) 食物資源説等が挙げられていますが、今木らは、クマによる樹皮剥ぎの発生要因として、これまでの本邦における研究成果や米国での研究成果を加味し、食物資源説が比較的容易に樹皮剥ぎの発生要因として説明することが可能であると考察しています<sup>1)</sup>。この中で、米国におけるアメリカクロクマによる樹皮剥ぎの要因は栄養生理学的な視点が全てで、1) 樹木の糖類生産量の動態、2) 樹木のテルペン類生産量の動態、3) その時点における他の食物栄養成分と利用可能量という三つの軸で描くことが報告されています。さらに、食物資源説の説明として、より糖分供給量が多くなる大径木に偏って剥皮される状況、樹皮剥ぎ発生時期は、クマの体重が最も減少し、栄養学的に厳しい時期であることから、春季の食物不足を補うためであるとの説も指摘されています。有峰では、例年梅雨時の6月～7月に限られ、主に植林されたカラマツやスギなどの針葉樹の大径木に偏って、樹皮剥ぎの被害が発生しており、今木らの引用の内容と一致しています。有峰で樹皮剥ぎされたカラマツも形成層がむき出しになり、犬歯により形成層がこそぎ落とされた様子が確認しました。この個体が、地面を掘起し、アリを捕食(蛋白源を摂取)する行動も確認しています。一方、剥皮行動の獲得については、母から子への垂直伝播によって伝わっていく可能性も記載されており、2頭の子熊を持つ有峰の育児期の母熊(雌熊)の今後の生態・行動に注目し、調査を継続していこうと考えています。

引用文献 1) 今木洋大他 (2013) 米国ワシントン州におけるクマによる樹皮剥ぎ被害対策と日本における応用の可能性 日林誌95:7280-290



形成層が露出したカラマツ 6/26撮影



樹皮剥ぎされたカラマツ 7/1撮影



樹皮剥ぎされたカラマツ 7/3撮影



樹皮剥ぎ中の母熊と子熊